

令和6年度 第75回奈良県中学校総合体育大会における熱中症対策について

| 部活名 | 試合等について<変更等> | 熱中症対策 | |
|-----|--------------|---|---|
| 1 | 野球 | 3. 5. 7回に給水タイムを入れるため、両軍ベンチに引き上げさせる。 | ・水分補給を各回に行う。弁当の保管場所を確保する(クーラーボックス等活用含む) ・攻撃又は守備が、15分経過した時点で、中断し給水タイムとする。 |
| 2 | バレーボール | 1セットに1回、給水タイム(30秒間)を入れる。 | ・ 体育館に空調設備がない場合は午前中で試合を終了する。(大会期間は前年度の4日間から5日間に変更) ・試合会場、会議室等の待機場所については、 空調を利用しながら室温調整を行う。 ・応援等については、病気・事故の防止に最大限努められる体制を整える。 ・体調不良の生徒が出たとき、保護者にすぐに来てもらえるよう、各校顧問で保護者の連絡先を確認しておく。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 3 | バスケットボール | | ・公営体育館会場では空調を利用しながら室温調整を行う。 ・中学校会場でも、空調の利用できる中学校会場をできるだけ使用し、室温調整を行う。 ・各会場で熱中症の注意喚起を行う。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 ・体調不良の生徒が出たとき、保護者にすぐに来てもらえるよう、各校顧問で保護者の連絡先を確認しておく。 ・経口補水液、保冷剤を各校で準備するように促す。 |
| 4 | ソフトボール | ・1回戦の試合を7回90分を超えない。 ・各チームに短縮できるように協力を求める。 ・準決勝・決勝は2試合連続になるので、決勝開始時間を準決勝終了から30分以上確保する。 ・3回表、5回裏終了時に2分間の給水タイムをとる。 ・守備側が15分以上守備をしている状況になったときには2分間の給水タイムをとる。また、状況に応じて給水タイムをとることもある。 | ・日よけテントを設置する。 ・グラウンドへの散水を適宜実施する。 ・本部に 経口補水液 ならびに氷を準備する。 ・準決勝・決勝以外は各チーム1日1試合、曇過ぎには終了できるように日程を組んでいる。 |
| 5 | 卓球 | 日程を増やし、1日での試合数の最大数を減らした。 | ・空調を入れる。 ・各校顧問から生徒へ こまめに給水の指示 をする。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 6 | 体操・新体操 | | ・空調を入れる。 ・各校顧問から生徒へ こまめに給水の指示 をする。 |
| 7 | 水泳 | ・救護役員を1名増員し、会場内を巡回する。 ・通告(放送)による水分補給の注意喚起をこまめに行う。 | ・ 管理棟にエアコンを入れて救護室として使用する。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 8 | 相撲 | | |
| 9 | ソフトテニス | ・ルールで認められている以外に給水タイムをとる。 ・気温が基準に達していないでもファイナルゲーム前のインターバルを通常の1分から3分とする。 ・試合が連続となる場合はインターバルの時間を原則10分以上とする。 ・1人の選手が1日で行う最大試合数が6となるような日程になっている。 ・団体戦においては自分の試合でないときに選手はベンチから出て、涼しいところで待機してもかまわない。 | ・体調不良者が待機できるように、涼しい部屋を準備する。 ・経口補水液およびスポーツ飲料を運営本部で準備する。 ・十分な水分や保冷剤の準備、帽子着用の刷行について各校で指導いただく。 |
| 10 | バドミントン | ・1セットを21点制を15点に変更 ・セット間のインターバルを取る。 | ・ 空調の効かせた部屋を借りている。万が一の休憩場所。 ・ 定期的な空気の入れ換え を実施する。 ・熱中症等の発生時は迷わずに救急車の手配をする。 |
| 11 | テニス | ・個人戦は全て1セットノードバンテージ方式にし、選手の負担を軽減する対応を取っている。 ・1ゲーム毎の水分補給を認めている。 | ・ヒートルールとして、ゲームカウント5-5になった時、(クーラーの効いた部屋を準備して)5分間の休憩を取らせる。 ・熱中症対策としてクーラーの効いた救護室を準備している。 ・本部に 経口補水液 を準備 ・開会式、大会中に水分補給、日陰での観戦・応援・日傘の使用等を呼びかける。 |
| 12 | 剣道 | ●延長戦(個人戦、団体戦の代表者戦)の持ち方について 試合3分間の後の延長戦の「ルーティーン」について、本年度より下記のように変更あり。 <~R5> 2分延長→2分延長→【小休止10秒】→2分延長→2分延長→ 【面を外して休憩(3分間)】→ … <~R5> 2分延長→2分延長→【小休止10秒】→2分延長→2分延長→ 【面を外して休憩(5分間)】→ … | ・空調が入る体育館で大会を実施する。 ・昼食(弁当)は、「保冷剤を用いるなど痛まない各自が工夫するように」という主旨の連絡を、顧問が部員に対し、事前指導するとともに保護者へも協力要請をする。 ・十分な水分補給を呼びかけるとともに、大会ごとに選手の給水場所を諸連絡(開始式)で周知する。 ・経口補水液を、本部(救護係)が準備しておく。 |
| 13 | ハンドボール | | ・空調を入れる。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 14 | サッカー | 【1日目】(7/15) ・5会場を実施する。各会場 1日の試合を2試合 とする。 ・1試合目 9時キックオフ / 2試合目 11時00分キックオフ ※12時00分 終了予定 【2日目】(7/20) ・8会場を実施する。会場 1日の試合を2試合 とする。 ・1試合目 9時キックオフ / 2試合目 11時00分キックオフ ※12時00分 終了予定 【3日目】(7/22) ・4会場を実施する。会場 1日の試合を2試合 とする。 ・1試合目 9時キックオフ / 2試合目 11時00分キックオフ ※12時00分 終了予定 【4日目】(7/24) ・4会場を実施する。会場 1日の試合を1試合 とする。 ・1試合目 9時キックオフ ※ 10時30分 試合終了予定 ※ 11時00分 試合終了予定 【決勝リーグ】(7/26・28・30) ・2会場を実施する。会場 1日の試合を1試合 とする。 ・1試合目 9時キックオフ ※ 11時00分 試合終了予定 | ・出来る限り気温が上がりにくい午前中に試合を行う。 ・連続での試合をなくし、1日おきに試合を行う。 ・各会場に テントを配置 する。(本部ならびに両チームベンチ) ※ 会場近くに エアコンの効いた部屋を確保 する。 ・全試合天候に関係なくクーリングブレイクを採用。 ・WBGT31℃以上の場合にはクーリングブレイクと飲水タイムのハイブリッドを採用。 (クーリングブレイクを2回採用することもある) ・ 十分な水分補給を呼びかけ、試合時間中であってもピッチ脇のスライズボルトなどでこまめに 飲水できるようにする。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 15 | 柔道 | | ・空調を入れる。 |
| 16 | 弓道 | 個人戦の射数を、2日間で16射から12射に変更。 (2日目を8射から4射に) | ・観覧エリアにテントを設置する。選手、応援(部員のみ)の屋根のある休憩所を確保。 ・エアコンの効く、救護室を準備する。経口補水液や冷却するものを準備する。 ・試合の切れ目(約30分~50分毎)で5分間の休憩を取り、十分な水分補給を呼びかける。 ・この大会では、団体戦の選手交代を可とし、再交代も可とする。(ただし、交代は事前に登録された控え選手に限る。) |
| 17 | ホッケー | 前半15分ハーフで行っていた試合形式から、7分・1分給水・7分・5分休憩・7分・1分給水・7分の4クォーター形式に変更して試合を行う | ・各校顧問から生徒へ こまめに給水の指示 をする。 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |
| 18 | ラグビー | すべての試合を午前中で終了する。 | ・前半・後半それぞれの間にウォーターブレイクをいれる。 ・本部に氷や経口補水液を準備する。 |
| 19 | 陸上 | ・タイムテーブル(競技順・日程)の変更 ・競技形式の変更(一発決勝レース) ・暑い時間帯は競技をせず、休憩時間をとっている。 | ・水分補給を定期的に行うよう随時アナウンスを行う。 ・各校、各競技場所でテントを準備し設置する。 ・看護師を2人配置する。 ・競技場トラック競技ゴール付近にミスト扇風機を2台設置 ・本部に 経口補水液 を準備する。 |